

いま、須坂がおもしろい。

文化の香り高い
懐かしくてあたたかい町

須坂には、須坂の良さがある。大切にしたい歴史がある。

綿幸蔵シツク情報

綿幸のまちづくりは、 三十五年前から始まっています。

須坂綿幸

創業以来、中町一丁目現在の地に店をかまえてより今日まで、地域のお客様にご愛顧をいただき、常に「誠実な商い」をモットーとしてこれからも変わらず綿幸創業の地にしつかりと根を張って、地域の発展のために日々努力してまいります。

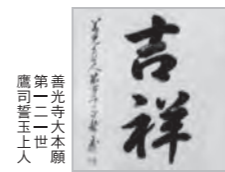
創業以来、中町一丁目現在の地に店をかまえてより今日まで、地域のお客様にご愛顧をいただき、常に「誠実な商い」をモットーとしてこれからも変わらず綿幸創業の地にしつかりと根を張って、地域の発展のために日々努力してまいります。

信州の老舗
〈信州の老舗〉表彰

創業以来、中町一丁目現在の地に店をかまえてより今日まで、地域のお客様にご愛顧をいただき、常に「誠実な商い」をモットーとしてこれからも変わらず綿幸創業の地にしつかりと根を張って、地域の発展のために日々努力してまいります。



長野県百年企業(信州の老舗)表彰

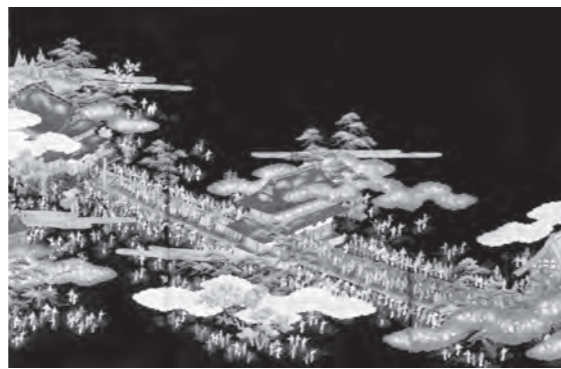


江戸期の土蔵「染織館」



大正10年頃の綿幸

御開帳留袖奉納



善光寺御開帳留袖

商人文化

店はその店主の
人柄を現すと
言われていますが、
単に物売り業ではな
く、常に新しい時
代を見つめながら
も、古き良き大切
な日本の伝統文化
を伝え、育て、地
域の発展に努めて
います。

御礼ごあいさつ

一昨年度の建造物指定、昨年は県知事より「信州の老舗」として表彰されました。
永い歴史の中には色々な変転があり、その時々それ等を乗り越え、常に堅実で地道な営業を行ない、お客様第一に今日に至っております。この姿勢を支えてくださったお客様を大切に、これからも皆様に愛される店づくりを致してまいります。
平成二十七年 九月吉日

綿幸株式会社

代表取締役社長 中野博勝

須坂には、須坂なりの歴史と文化があります。
単にそれ等を過去のものとして、大切なものを大切と見つめる心の向上
そして、それを支え育てることの大切さを市民が知ったとき、
郷土愛となつて、その町が本当に発展する時です。
綿幸は微力ながら、うるおいのある町づくりを
これからも努力してまいります。

須坂祇園祭の復活!

永年、祇園祭の御飯屋が当店上の中町の角に安置され、二百数十年に渡り、祇園祭にもぎわっていました。
その復活を願ひ
留袖に須坂祇園祭
の絵図を染めたり
みこしを担いだり
おはやしをしたり
と、それ等の活動
が笠鉾会館建設と
なり、実って来ま
した。

その復活を願ひ
留袖に須坂祇園祭
の絵図を染めたり
みこしを担いだり
おはやしをしたり
と、それ等の活動
が笠鉾会館建設と
なり、実って来ま
した。



中町区笠鉾行列

須坂の町の 雛祭り提唱

十四年前より雛まつりを提唱し、商店や家々にお雛様を飾って、全国にも知られるようになりました。



綿幸店内の雛展示

第一回 町並み景観賞受賞

「重厚な中にも明るく、暖かな雰囲気を持つ美しい建物で、個人商店、特に老舗のあり方の典型的な作品。温故知新の心がにじみ出た、民間資本の手法ともなる作品である。」と高く評価され、受賞しました。
(平成三年五月)



建造物指定綿幸の店内



茶室「寿幸庵」

蔵の美術館

蔵のギャラリー綿幸サロン

全国から来店者

永六輔さん、ピーコ、高田純次、デザイナーのコンノジュンコさん、大学教授、建築家、染織家など、多数の方が当店へ来店されています。



第1回 信州須坂町並み景観賞受賞
歴史的建造物指定

地域の発展を願って



二宮尊徳像建立

中町一丁目道路標柱設置

芝宮墨坂神社灯籠奉納

米子不動寺門柱奉納

中町区へ子供みこし寄贈

脈々と生きづく、須坂商人の心意気
商人文化が町づくりになって今、花開く。

呉服・染織工芸・結納品

〒382-0082 須坂市中町218
☎245-0218・248-3939

駐車場完備

綿幸は八十二銀行前です。

蔵のギャラリー
綿幸サロンの
ご利用を
平成元年に明治時代の土蔵を改装し、蔵のギャラリー「綿幸サロン」をオープンして以来、幅広い活動を行ってまいりました。これからは綿幸は須坂から伝統文化とアートを発信していきます。

